

あの悲しみは二度と感じたくないと思わないのか？

この紙面では、極力厳しいことを言わないように心がけているが、今日は伝えたいことがある。2月13日に生徒指導部から生徒への周知徹底とのことで連絡があった内容だ。

- 1 2号線での信号無視が多い。一旦停止のところを止まらずに飛び出す。
- 2 自転車の並進が多い。

生徒指導部からの通知は「心配より信頼」という考えのもと、あえて抑えた表現をしてくれている。だから私はあえて厳しく言う。

その「信頼」を君たちは自ら放棄しようとするのか？
自分だけは交通事故に遭わないという甘い考えからなのか？
あの悲しみをもう忘れてしまったのか？

自分が交通ルールを守っていても、事故に巻き込まれる確率はゼロではないということを昨年辛い思いをして学んでいるはずだ。まして、信号無視、一旦停止違反、並進など、言語道断だ。そんな違反を犯した結果事故に巻き込まれたとしても自業自得だと言えるかもしれないが、周りの人の悲しみは筆舌に尽くしがたい。また、交通違反に巻き込まれて加害者になってしまう人の人生も狂わせてしまう。

一部の人だと思いたい。今回の苦情電話も以前の厳しいだけのものとは異なり、本当に心から心配してくださる地域の方からの言葉だ。「丁寧に生きる、感謝と笑顔と。」は、自分だけではなく、周りも笑顔にするという意味だ。本校生の姿を見て眉を顰める方が周囲にいらっしゃるのは本意ではない。また、これからも「心配より信頼」を継続していきたい。私は、「あの悲しみは二度と感じたくない」

特色選抜入試の準備はよくやってくれた

昨日、特色選抜入試が滞りなく終了した。例年以上に志願者を集め、レベルの高い競争になった。合格発表は2月20日。新しい後輩の一部が決定する。

その特色選抜入試の準備のため、2月13日は、全校生徒によって受検生を迎える準備を徹底的に行った。私も掃除機を持って階段の隅の埃を取り除く作業に従事した。私が廊下を掃除していると「代わります」と言い、集めたごみを塵取りでとってくれた生徒もいた。その後様子を見ようと校内を歩いてみた。誰一人として手持ち無沙汰にしている生徒も先生方もいなかった。皆、何らかの仕事に一所懸命身体を動かしていた。特に外のトイレを2年生の女子が掃除してくれていたが、スカートをどこかに仕舞い、寒い中ハーフパンツ姿で水をまき、ブラシで磨き上げてくれていた。また、受検生を迎えるため、玄関周りにプランターの花を飾ってくれた生徒は、重いプランターを制服の汚れも気にせず運んで並べてくれていた。受検生が気持ちよく試験に臨んでくれるようにという願いが伝わってくるようだった。

比叡山延暦寺で厳しい修行を積み重ねた高僧が次のように述べている。「絶対のルールとして申し上げますが、床は歩き、座る場所です。決して『ものの置き場所』ではありません。放り出した本や雑誌は、所定の本棚に仕舞ってください。もし溢れてしまうとすれば、本棚に収められた書籍に『優先順位』をつけ、収納できる分以外は処分するか、どなたかに譲るしかありません。なぜなら本や雑誌の置き場所は、本棚だからです。・・・置かれるべき場所があるならば、そこにものはあってよいのです。置かれるべき場所がないのであれば、それは、あなたの手に余るものなので、処分するなり、誰かにお譲りになられた方がいい。『要るか／要らないか』というよりも、『そのものにふさわしい置かれる場所があるか／ないか』をご判断されることで、あなたにとって適切なものの量は決まってくる、というのが基本的な考え方でしょう。」(『比叡山大阿闍梨 心を掃除する』光永圓道大阿闍梨 <https://news.yahoo.co.jp/articles/ed12231c7cddabbe482b8462e8ca7bd72db198c57?page=1>)

掃除で人生は整うのだ。掃除がきちんとできる学校は、それだけで値打ちがあるし、掃除が落ち着いてできる学校は、全体が落ち着き、穏やかな気持ちで生活することができる。そんな雰囲気を受検生はきっと感じてくれることだろう。この雰囲気を校外でも、誰も見ていなくても・・・。

卒業式まであと10日、その前に学年末考査

学年末考査では全員が進級できるよう、全力で準備して臨んでほしい。すっきりと卒業を祝いたい。

We keep on trying. 挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校に私たちはなる 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩